# 令和２年度学校評価シート

令和3年3月1日

青梅市立第三小学校

# 令和2年度　学校評価シート

＜学校経営方針の重点＞

1. 確かな学力の向上　　2. 豊かな心の育成　　3. 基本的生活習慣の確立と規範意識の育成　　4. 健やかな体の育成

| 項目 | 経営目標 | 本年度の重点 | 具体的な方策 | 自己評価 | 分析結果 | 改善策 | 学校関係者評価記入欄 | | 学校の見解と今後の方向性 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 評価 | コメント | |
| 学力の向上 | よく聞きよく考え最後までやり抜く児童を育成する。 | 言語活動の充実を図り、読む、書く、聞く、話す、計算する力の確実な定着と充実した授業実践を図る。 | 学力調査やベーシックドリルの活用を図り、児童一人一人の学習理解度を把握し、指導に生かす。朝のモジュールの時間を活用し、学力の向上を目指す。 | B | 教員評価、保護者評価は昨年度より向上している。教員のPDCAによる授業改善が進み、保護者もその成果を評価している。 | 定量的な分析は国・都の学力調査で明らかにできるので、来年度は主要教科を前年度比で比較分析する。 | A:0<br>B:6<br>C:0<br>D:0 | ①PDCAによる授業改善をどのように実施したことで学力向上につながったかを把握して更なる改善につなげて欲しい②学力調査の全国・東京都との比較は出ているのでしょうか。来年度は比較分析をするとのことですが、是非分析結果を次の指導に生かしてください③学力向上、一人々違いはあるものの楽しく参加できる学習であるように。保護者の評価が物語っていますね④コロナ下の変則的授業で創意工夫をこらしたでしょう | 授業改善が図られたかどうかは教員の実感に加え、児童が「授業がよくわかる」「授業でできるようになった」と言えるかどうかで把握できる。非認知能力を含め、児童に向上を実感させることのできる授業を展開するとともに、定量的な分析を経年比較で行うことで実態を明らかにし、学力向上を具体的に進めていく。 |
| | | | 図書支援員との連携を図り、読書や読み聞かせ、読書期間、「おすすめの本カード」の活動を充実させ、読書好きの子供を育てる。 | A | 読書指導の充実は、肯定的評価は昨年度比＋10％（教員）、＋7％（保護者）。家庭にいる期間も読書をする習慣がよく影響した。中学校区で三校（三小、今井小、三中）読書カードの紹介をお互いに行った。 | 図書支援員の一層の活用、読み聞かせの充実、読書交流（三校）は継続し改善しながら実施する。委員会活動（図書委員会）による読書の啓発を行う。 | A:6<br>B:0<br>C:0<br>D:0 | ①具体的な方策である図書支援員との連携が良かったと思われる。 ②これからもたくさんの本と出会ってほしい。 ③読書指導は良くできていると思います。図書委員会・図書支援員の活動も立派です。 ③読書指導の難しさは一率にはいきませんよね。でも％があがっているのは、高評価ですね。読書交流がんばって下さい。 | 学校関係者評価は極めて高い評価を得ることができた。コロナ感染拡大防止を第一にしながらもできることを探りながら進めてきたことが評価された。<br>他校の実践に学び、より一層読書好きの児童を育成するために改善を重ねていく。 |
| | | | 1時間ごとの指導のねらいを明記した週案を作成し、1時間の授業実践を充実させる。週案を実践記録して、結果を授業に生かす。 | A | 教員評価では肯定的評価は90％（前年比＋13％）、児童の授業評価も8項目すべてが90％以上の肯定的評価である。<br>保護者の学力向上に対する評価も肯定的評価）95％である。 | 授業のために費やす時間は昨年よりも確保されているとする教員の声もある。そのことから授業計画から振り返りまで例年より時間を取ることができた結果としてみることができる。今後も業務改善を進め、時間を確保する。 | A:6<br>B:0<br>C:0<br>D:0 | ①より具体的な週案の作成に依り、効果があったと思われる。 ②コロナウィルス感染拡大の影響で、長期休校があったにも拘らず、授業時間の確保ができたのは努力と工夫の成果だと思います。 ③教員評価、授業評価、保護者評価いずれも90％↑最高ですね。 | 学校関係者評価は極めて高い評価を得ることができた。授業時間の確保と学びの保障を第一に組織的に取り組んできたことが評価されたものといえる。<br>指導のねらいを明らかにすることはできてきているので、学んだことを自覚させるための「ふりかえり」を大切にする授業、行事を進めていく。 |

# 令和2年度　学校評価シート

＜学校経営方針の重点＞

1. 確かな学力の向上　　2. 豊かな心の育成　　3. 基本的生活習慣の確立と規範意識の育成　　4. 健やかな体の育成

| 項目 | 経営目標 | 本年度の重点 | 具体的な方策 | 自己評価 | 分析結果 | 改善策 | 学校関係者評価記入欄 | | 学校の見解と今後の方向性 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 評価 | コメント | |
| 豊かな心の育成 | 思いやりがあり仲良くする児童を育成する。 | 児童相互によさや価値を認め合い、一人一人の存在が認められるよう教育活動全体を通して指導を行う。 | 道徳の時間や全教育活動を通して自分の生き方を振り返らせ、自他を尊重しようとする心情を育てる。 | A | 保護者評価「決まりやマナー」「挨拶と生活習慣」は肯定的評価90%以上（前年も同程度）。教員評価「道徳教育」は肯定的評価80%（前年も同程度）。道徳授業地区公開講座は実施できなかった。 | 公開の機会は得られなかったが、道徳授業地区公開講座は今年度の研究を生かして校内で行うことができた。来年度も継続して道徳授業を改善していく。 | A:6<br>B:0<br>C:0<br>D:0 | ①公開の機会が無くとも更に具体的な目標があれば継続的な改善が期待できる。 ②道徳の公開授業が実施できなかったのはとても残念。大事な道徳、工夫して継続してほしい。 ③新型コロナウィルス対策（8－①）共通事項はマニュアル化して作成してある。それを担任が丁寧な言葉にて伝える ④道徳教育を含めた全教育活動により、マナー・挨拶・生活習慣の評価が高いという結果良い傾向。 ⑤公開講座の機会得られなく大変残念だったと思います。 | 道徳の時間の教材の扱い方、評価の仕方については教員の研究テーマとして行ったことからも教員自身も肯定的評価が高く、外部評価も高い数値になった。公開講座は通常通りの実施はできなかったが道徳推進教師を中心に組織的な取り組みができた。自分も人も大切にすることは本校の教育目標でもあり、来年度も高水準の評価を得られるよう進めていく。 |
| | | | 都立青峰学園、かすみ学級と通常学級の交流を積極的に行い、交流・連携活動の充実を図る。 | C | 都立青峰学園との直接交流は新型コロナウイルスの影響でできなかった。またかすみ学級との交流は日常的なことができず、例年よりも交流の実施中止が多くあった。 | 間接交流として、ICT機器を活用したWEB上での交流や、障害理解の授業を通して相互理解のできる機会を作る。 | A:0<br>B:3<br>C:2<br>D:0 | ①コロナ禍でも出来る事を早い時期に取り組むなど今后に活かせる改善が必要。 ②新型ｺﾛﾅｳｨﾙｽの影響は大。来年度工夫しながら交流を図って欲しい。 ③ｺﾛﾅｳｨﾙｽ感染拡大の影響で交流活動ができなかったことは仕方ない、代替方法の検討を。 ④WEBを利用しての学習及び活動に力を入れていくべきだと思う。児童のWEB行うにはまずは、先生方のｽｷﾙｱｯﾌﾟに取り組むのが重要だと思う。⑤次年度は改善策を活かし、交流が深まることを期待。 | コロナウイルス感染拡大防止を第一としていることで通常の交流はできなかったが、代替案としてWEBでの交流も考えたい。また、かすみ学級のある設置校としてリーフレットを作成し、保護者地域の理解を啓発する。<br>学芸的行事で副籍交流を進める。 |
| | | | 自然体験活動や動植物の飼育・栽培活動を積極的に行う等、情操教育を進める。 | C | 蚕を育てる理科の学習、三小の森のどんぐりを使った生活科の学習を行った。コロナの影響で1年生は動物のふれあい体験ができなかったが、移動動物園を活用して情操教育を進めた。 | 学校内で行う体験を試行錯誤で行った1年間であった。工夫とアイディアでカバーできることには限界があった。 | A:0<br>B:3<br>C:2<br>D:0 | ①限られた環境でも出来る事に取り組んだ事は評価出来る。移動動物園は一定の効果があったのではないか。 ②蚕を育てるのは大変だったと思う。私自身蚕と共に育ってきたので感慨深い。色々な体験をしてほしい。 ③コロナウィルス感染拡大の影響で活動に制約があったと思う。本年の反省を踏まえて来年以降に活かしてほしい。 ④一年生には残念だったと思うが、殆ど生徒さんが喜ばれたﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑだったのでは。子供達がうらやましい限り！ | 生活科・総合的な学習の年間計画を見直し、「青梅学」を進める視点で体験活動を意図的計画的に進める。令和3年度は試行錯誤の年となるかもしれないが、体験活動の教育的意義を共通理解し、打ち上げ花火ではなく計画性のある体験を系統的に積み上げていく。 |

# 令和2年度　学校評価シート

＜学校経営方針の重点＞

1. 確かな学力の向上　　2. 豊かな心の育成　　3. 基本的生活習慣の確立と規範意識の育成　　4. 健やかな体の育成

| 項目 | 経営目標 | 本年度の重点 | 具体的な方策 | 自己評価 | 分析結果 | 改善策 | 学校関係者評価記入欄 | | 学校の見解と今後の方向性 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 評価 | コメント | |
| 生活習慣と規範意識 | 望ましい生活習慣を身に付け、いじめや不登校のない学校づくり | 学習効果を高める授業規律・生活規律の確立と「あじみこし」の推進。全校を挙げて組織的に学校問題に対応する。 | どんな場面でも、「はい」「～です」と応えることのできる児童を育てる。 | C | 教員評価では大幅に下がった。昨年度肯定的評価83%→今年度35%。児童評価でも進んで挨拶する、の肯定的評価は前年比10%減少した。コロナの影響で声を出すことがためらわれることも原因として出てきている。 | あいさつについては教員からも実態としてできていない子が多いことは指摘されている。PTAや委員会活動等の連携を含めて改善を図る。 | A:0<br>B:1<br>C:5<br>D:0 | ①児童の心に寄り沿って応える事が出来るまで育成する具体的目標を掲げれる事で成果を期待したい。②「あじみこし」の徹底をお願いします。③「挨拶ができていない」との評価ですが、項目:「豊かな心の育成」では、「挨拶と生活習慣」の評価が高いという結果との整合性はどうなっているのでしょうか？④やはりコロナ禍の影響でしょうか、子供達に大きな内向性が育ったのでしょうか、特に年令の低い子には精神的影響大だったのでは。⑤声を出させない配慮の難しさ | あいさつ、返事は生活指導の基礎基本である。特別活動部の取り組みや生活指導での生活基本習慣の確立を「徹底」させて、来年度評価は向上させる取り組みを行う。 |
| | | | 社会生活のマナーを大切にし、具体的な態度を児童・教職員が身に付けていく。 | C | 上記の言葉遣いに加え、あいさつ、規範意識等の教員評価は肯定的前年度17%減。児童評価では言葉遣い、あいさつ、廊下の歩行等前年度10%減。実態でもマナーを身に付けた振る舞いになっていない。 | コロナ下での教育活動であることが影響していたこともあるが、美しいふるまい、社会のマナーは繰り返し教え躾けていく。家庭での様子も情報交換し、保護者も含め町ぐるみで取り組むことを探る。 | A:0<br>B:1<br>C:4<br>D:1 | ①社会生活のマナーが児童に受け入れられるように躾ける具体的方策があると、もう少し成果が上がってのでは。 ②近所の一般の方にあいさつをする事は見られない、知らない人には声をかけてはいけないのでしょうか。 ③「豊かな心の育成」での評価結果と返りが大きすぎ違和感がある。家庭との情報交換の大切さ、又身近な学校内での生活が子供達にとって楽しみでありますよう。 ④集団生活が今年は難しかったですね。この状況下での指導が悩むところです。 | 学校関係者評価でも数値は低いということから、本校の取り組むべき大きな課題ととらえる。<br>社会生活のマナーは例えば公共の場で他人に迷惑をかけないなどがある。校外学習で気付かせるのではなく、学校そのものが公共の場であることを共通の認識として教員が取り組むようにする。来年度評価は80%の肯定的評価を達成させる。 |
| | | | 児童理解を深め、教職員で情報を共有し、課題の早期発見・早期対応を心がける。 | A | 教員評価95%、児童評価（相談できる先生がいる）82%、保護者評価（早期対応できている）85%と、水準は高い。 | 今年度は児童の情報の共通理解を図る打合せを定期的に行い改善が図られた。児童の2割が相談できる大人がいないことについて対策対応を図る。 | A:5<br>B:1<br>C:0<br>D:0 | ①児童理解が深まったとする教員評価に対し、受け身の児童評価や保護者評価が10ポイント差を縮める必要がありそう。 ②「相談できる先生がいる」という児童の評価が多いのは結構なこと。2割の児童対策も是非お願いを。 ③児童の情報の共通理解も大切だが、教員間の教育に対しての考え方や指導方法についてバラつきを感じた。教員も一人の人間であるので考え方は様々であるが、指導、教育を受ける児童には統一した教育が望ましい。 ④情報交換の大切さ実感、子供達成長過程なのに。 | 学校関係者評価でも評価は高い。本校の児童の課題解決は組織で行うことができていることを評価されている。<br>相談・報告を当たり前のこととする文化を継承しつつ、課題解決に結びつく組織力を向上させ、年度末評価の水準を維持または向上させる。 |

# 令和2年度　学校評価シート

＜学校経営方針の重点＞

1. 確かな学力の向上　　2. 豊かな心の育成　　3. 基本的生活習慣の確立と規範意識の育成　　4. 健やかな体の育成

| 項目 | 経営目標 | 本年度の重点 | 具体的な方策 | 自己評価 | 分析結果 | 改善策 | 学校関係者評価記入欄 | | 学校の見解と今後の方向性 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 評価 | コメント | |
| 健やかな体 | 心身ともに健康でたくましい子を育成する | 安全教育の推進や児童の体力面の課題に即した運動を授業の中で取り組む。 | 体力テストの結果をもとに、一校一取組の運動を計画的に進める。 | B | 教員評では体力向上にむけた外遊びは90％の肯定的評価であり、保護者評価では肯定的評価75％（前年比＋8％）。健康への意識は高まったと回答されている。<br>一校一取組はコロナで外遊びも回数が減り実施できていない。 | 外遊びは密を避けるために例年よりも回数が半分に減っている。休校明けの6月7月は体力の低下とみられる怪我なども散見されたが、年度末には解消されている。<br>体力テストは実施できなかったが、日常の体育的活動を組織的に取り組み、体力向上を図っていく。 | A:1<br>B:5<br>C:0<br>D:0 | ①外遊び以外の体力向上策はコロナ禍の中でこそ必要とされる。アイディアは出尽す事が無いと信じて工夫して頂きたい。 ②室内で過ごす事が多い中、密を避けた外遊びが出来るといいなと思います。体力づくりは大切です。 ③外遊びを通じての体力向上は、ストレス発散の効果も期待できます。コロナ禍で密を避けるために、回数が減るのは已むをえません。 ④小学生の年代で広いところで思いきり遊べない子供達、本当に残念。しかし身体は大事！＋精神面も大事！の中で先生方の大変さ推測されます。 | 体育の授業については児童自らがルールを考えるなど接触を避ける工夫をしたり、外遊びの時間は高学年児童が密にならないように呼び掛けたりすることで、運動機会の確保ができていた。学校がルールとして示すことに加え、児童自らが考え取り組むことを継続していく。<br>体育の学習の年間計画立案の際には今年度の取り組みの反省、成果を生かして工夫をしながら心身の健康向上を図る。 |
| | | | 避難訓練や安全指導、交通安全教室等を通して安全に向けた意識を高める。 | B | 教員評価は肯定的評価90％（前年比＋10％）。児童、保護者評価では安全についての意識は前年比＋－0％の結果であった。 | 保護者児童の評価が上がっていないのは、学校から保護者への啓発に課題があるとみられる。<br>交通安全指導を意識させる指導を継続して行うこと、また避難訓練を通して命を守る行動を身に付ける指導を行うようにする。 | A:0<br>B:4<br>C:0<br>D:0 | ①自己評価の記載が無かったが安全教育は生命を守るもの、保護者・児童の心に届く取組みを探求して頂きたい。 ②地域（自治会等）の自主防災組織への参加を切望します。 ③交通安全指導はもちろん、防犯・災害対策は学校の危機管理として重要です。訓練の実施をお願い致します。 ④やはり交通安全指導は大事！（特に車の多い通学路）他人事ではありません。仲良くはしゃいでいても車は急には止まれません。横断は特に！！”命を守る行動”よろしくご指導継続をお願いします。 | 避難訓練、月毎の安全指導に加え、課題がみられたときは全校で統一して指導を行うことを続ける。<br>学校での指導だけでは児童の安全を意識した行動変容は徹底しにくいので、保護者、PTA等の協力を得て安全指導を進める。 |

# 令和2年度　学校評価シート

＜学校経営方針の重点＞

1. 確かな学力の向上　　2. 豊かな心の育成　　3. 基本的生活習慣の確立と規範意識の育成　　4. 健やかな体の育成

| 項目 | 経営目標 | 本年度の重点 | 具体的な方策 | 自己評価 | 分析結果 | 改善策 | 学校関係者評価記入欄 | | 学校の見解と今後の方向性 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 評価 | コメント | |
| その他の重点 | 教員の資質向上 | 校内OJTの取り組み | 全教職員が経験年数、職責に応じて、日々継続してOJTを行う。 | B | 授業研究への取り組みの肯定的評価は90%（前年比＋5%）である。A評価（とてもそう思う）は15%減。 | 研究授業は行ったものの、密を避けるために参観、協議等を職員全員で行うことができなかった。状況が改善すればより効果のある方法を再開する。OJT週間の取り組みは好評なので継続して行う。 | A:0<br>B:6<br>C:0<br>D:0 | ①OJTは日々の授業などを通じてベテランのノウハウを承継できる。具体的目標にブレークダウンして取組んで欲しいと思う。②引き続き校内OJT取り組んでいただきたい。 ③授業研究は良い取り組みだと思います。校内結果・効果の検証をして改善して下さい。 ④先生だけが”特別”ではない！誰もが”コロナ”から身を守らなければならない！！ | 日々の継続こそがOJT（On the Job Training）である。校内研修、OJT週間の改善を行い、効果をより上げるとともにベテランのノウハウを継承する仕組みづくりをする。<br>3年度の校内研修、学校内評価、4年度の年間計画作成には個々の主体的参加を促す「ワールドカフェ方式」を取り入れる等、個々の向上的変容を促す。 |
| | 地域や外部との協働 | 地域や外部と協働する教育活動の展開 | 地域や外部の魅力ある力を積極的に取り入れ、「青梅学」を展開させる。 | C | 教員の肯定的評評価は昨年度75%→50%に減少。保護者評価は前年度と変化なし。コロナ対策を講じていたため、外部人材の協力を得られなかったことが主な原因と考えられる。 | コロナの対策を講じながら移動動物園やオリパラ講師招聘などを行ってきた。できることを考えて外部人材を活用していく。 | A:0<br>B:3<br>C:3<br>D:0 | ①今だからこそ出来る地域との協働を考えてはどうか、移動動物園は救いだった。②起業家教育の継続③コロナ禍では外部人材との協働は難しいと思います。次年度以降の取り組みを期待します。④コロナ禍で大勢の子供達、しかも遊び盛りの小さな子、心身ともに配慮の必要性求められて大変ですが。⑤外部人材活用をもっと図ってよいのでは。。 | 従来のような講師招聘はできなくとも、代替案を模索し、地域の力を生かして「青梅学」を推進する。<br>GIGAスクールが本格的に指導する令和3年度は教員の研修、児童の指導に外部人材を活用していく。 |
| | 情報の公開 | 積極的な情報公開と広報活動 | 学校便りを一新し、適時必要な情報を発信し、教育活動を広報する。 | B | 情報発信について保護者評価は前年度85%→今年度66%に減少。HPでの発信はコロナへの対応に向けて行うことができたなど一定の成果はあった。 | 学校便りを一新したことの評価があった。来年度はこれに加えてHPを児童の活動に活用するなどの工夫をして広報する。 | A:0<br>B:6<br>C:0<br>D:0 | ①HPや学校だより以外の情報公開とは何だろうと考えては如何か。②学校だよりはいつも拝見しています ③学校だよりの一新等の改善は良いと思います。保護者側からの児童の情報を受取る手法は工夫できませんか。 | 学校の情報公開の方法として、次の3点を実施する。<br>1）学校便りを編集計画に基づいて価値ある情報を提供する。<br>2）児童の情報発信力を生かすためにHPを活用する。<br>3）セキュリティに配慮して暗号化したデータをHPに掲載するなど、ICT機器の利活用を進める。 |
| | 組織力の向上 | 効率的なラインを活かした体制づくり | 協働体制を確立し、日々の問題への対応や業務の効率化を図り、働き方改革を積極的に進める。 | A | 協力体制と業務の効率化について教員の肯定的評価は85%であり、学校経営方針にある「教育活動の棚卸」が浸透している。 | 勤務時間は昨年度比で各月とも減少していることから、効率化の意識は出ている。さらに効率化を図り働き方改革を進める。 | A:4<br>B:1<br>C:0<br>D:0 | ①ワークライフバランスに一定の成果があった事は良かった。今こそ「棚卸」だと思う。 ②業務の効率化の意識が勤務時間の減少として成果が出ているようで結構なことです。引き続き取り組んでください。 ③先生方にとっても子供達にとっても家族にとっても先生方の体制は重要です。効率化等推考して下さい。 | 来年度は次の取り組みを行う。<br>1）月間の定時外勤務80時間の職員を減らす。<br>2）定時退勤日を月に2日設定し、効率的な働き方を意識させる。<br>3）棚卸とともに、ラインづくりで業務をより効率的に行う。 |